

経営比較分析表（令和5年度決算）

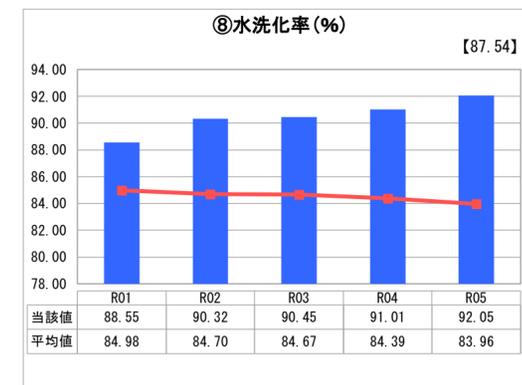
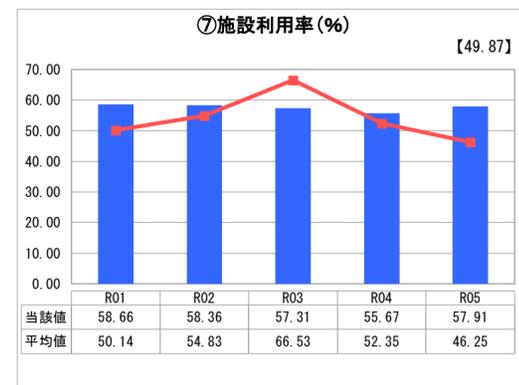
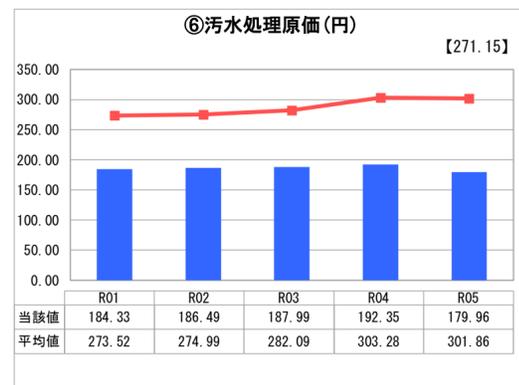
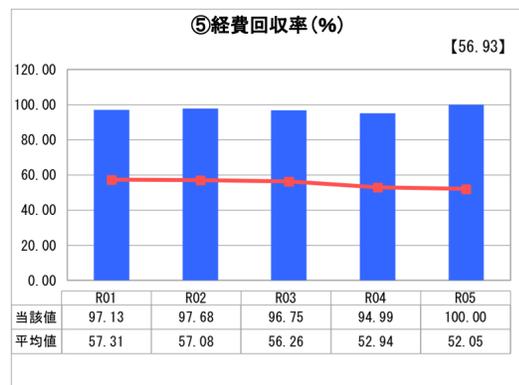
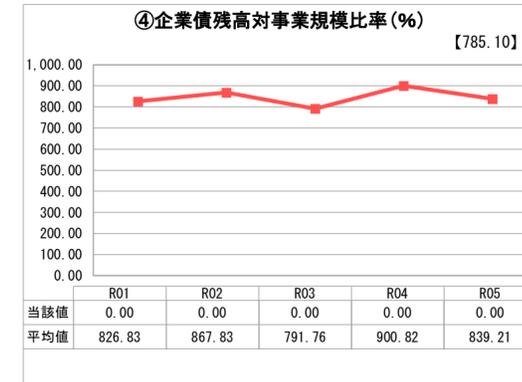
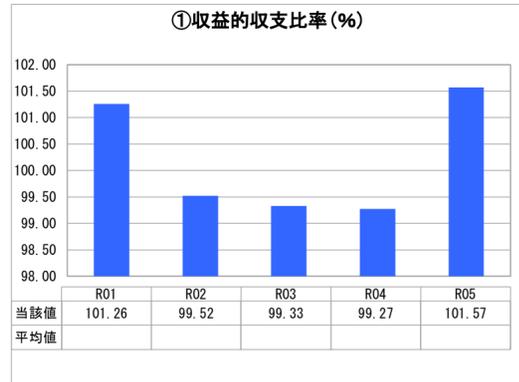
宮崎県 三股町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	5.95	87.80	3,305

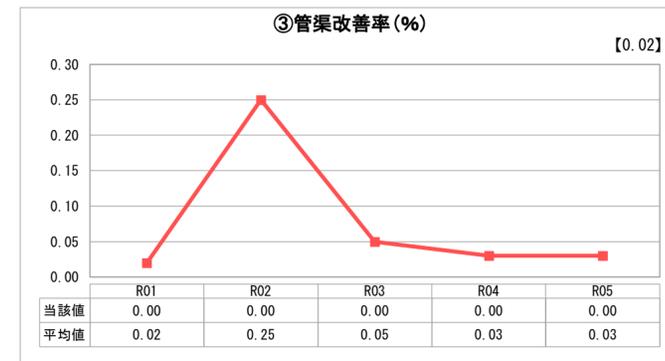
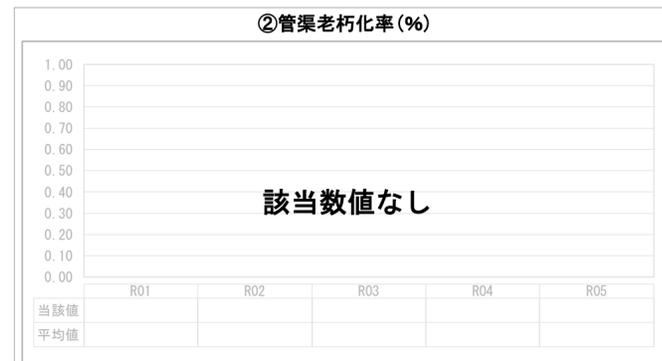
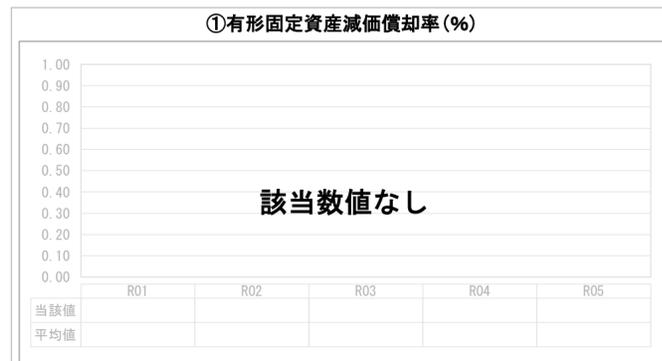
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,878	110.02	235.21
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,534	0.95	1,614.74

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本町の農業集落排水は、平成12年度に施設整備が完了し、平成13年度から供用開始しています。

①「収益的収支比率」は、経年比較しても増加傾向にあります。下水道使用料は前年度よりも減少し、費用についても減少しています。しかし、他会計繰入金により、100%を超えた状況ではありますが、更なる費用削減・使用料確保の取組が必要と考えます。

④「企業債残高対事業規模比率」は、0%となっており、本町の農業集落排水事業については、新たな起債はありません。一般会計繰入金により、起債償還金を賄っている状況ではありますが、今後は償還金の減少に伴い、繰入金依存が改善されていくと思われます。

⑤「経費回収率」は、類似団体を上回っていますが、今後は汚水処理費の改善対策も重要であると考えます。

⑥「汚水処理原価」は、類似団体より低く、令和元年度からは増傾向にあります。本町の農業集落排水区域は、梶山地区と宮村地区の2カ所あり、梶山地区は横ばい、宮村地区は微増となっていますが、今後は人口減少が予想され、有収水量の大幅な増加は考えにくいいため、効率的な汚水処理経費となるよう努めます。

⑦「施設利用率」は、近年ほぼ横ばいの数値であり、類似団体の平均値を上回るなど、安定している状況ですが、今後さらに効率性の向上に努める必要があります。

⑧「水洗化率」は、類似団体と比べ高い水準にありますが、さらに接続推進に努める必要があります。

2. 老朽化の状況について

耐用年数を超えている管渠はありませんが、処理場においては、徐々に修繕が増えていく傾向にあり、老朽化への計画的な財政対応が必要であると考えます。平成25年度に作成した施設最適整備構想計画（長寿命化）に基づき、施設の長寿命化を図り、対応していきます。

全体総括

健全な経営を維持するためには汚水処理費を軽減する検討が必要となります。また、施設の老朽化対策として、施設最適整備構想計画に基づいた整備を行い、長寿命化を図ることにより、経営への負荷を抑えるなど、改善を進める必要があります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。